



## インタビュー：M & A強化の好機、バンカー採用・買収も視野＝大和証券G社長



Ritsuko Shimizu Makiko Yamazaki

〔東京 22日 ロイター〕 -

大和証券グループ本社の中田誠司社長は、ロイターとのインタビューに応じ、世界的にM & A（合併・買収）が低調な現状を「M & A事業強化のチャンス」と捉え、積極的に優秀なバンカーの獲得に乗り出したいと語った。事業買収の可能性も指摘した。

欧米の金利上昇の影響を受けて、M & A市場は低調だ。こうした状況下で大和証券Gは「M & A事業やバンカーの補強をしている。いまだかつてないぐらい優秀なバンカーの採用ができています」という。

M & A市場の本格的な回復は、米国の利上げの最終局面であるターミナルレートが見え、金利が下がり始め、資金調達環境が整ってきてからになるため「来年中頃になる」との見通しを示した。「あと1年か1年半ぐらいはチャンスだと思っている。ここは打って出ようと思っている」と話した。

同社は2030年度にM & A関連収益を700億円にする計画を掲げている。採用したバンカーが収益に貢献するには2年程度かかることから、2年後の収益は「期待している」とした。

約2兆円を投じる日本製鉄の米USスチール買収を巡って、中田社長は「M & Aはビジネスツールとして必要不可欠なものになっている。事業が成長する限りは必ずM & Aは考える。このマーケットは減らない」と述べた。

一方、日系で唯一IB（紹介ブローカー）ライセンスを持って事業を行っている中国に関しては、IPO（新規株式公開）のほか、米中関係の悪化を受けて日系企業が中国ビジネスを見直しており「中国のビジネスのリストラクチャリング、場合によっては撤退などのアドバイザーを結構やっている」という。

さらには、世界的なネットワークの強みを生かして、欧州と中国、米国と中国などのクロスボーダー案件で「しっかりと存在意義、ポジショニングを確立していきたい」と語った。

\*インタビューは19日に実施しました。